

安全の手引き

サモア

《 目 次 》

I はじめに

II 防犯の手引き

- 1 防犯の基本的な心構え
- 2 サモアにおける最近の犯罪発生状況
- 3 防犯のための具体的注意事項
- 4 緊急連絡先等一覧
- 5 緊急時のサモア語

III 緊急対処マニュアル

- 1 平常時の準備
- 2 緊急時の行動
- 3 緊急事態に備えてのチェックリスト

令和6年11月改訂

I はじめに

この安全の手引きは在留邦人や旅行者の皆様がサモアで事件・事故に巻き込まれることのないように、留意事項をまとめたものです。これらの情報がサモアで生活される皆様の参考になれば幸いです。

II 防犯の手引き

1 防犯の基本的な心構え

サモアの治安状況は比較的安定していますが、「自分の身は自分で守る」という意識を持ち、日頃から安全情報の入手に努め、犯罪被害に遭わないよう心掛けてください。

2 サモアにおける最近の犯罪発生状況

サモアでは銃器による強盗や殺人等の凶悪犯罪は少ないものの、在留邦人を含む外国人宅を狙った空き巣や車上荒らし、大麻、覚醒剤等の薬物常習者による傷害事件、飲酒に伴う喧嘩、女性を狙った性犯罪等が発生しています。特に酔っ払いが多く集まるところではトラブルに巻き込まれる可能性が高いので、これらの場所には不用意に近づかないようにしてください。

3 防犯のための具体的注意事項

(1) 住居防犯対策

①住宅選びのポイント

- 地域の治安情報を収集し、周辺住民の生活環境や状況を確認する。
- 家の四方のうち、なるべく三方は別の住宅に囲まれているものが望ましい。
- 住宅決定前に行う物件確認と事前交渉の際、住宅の内装等を気に入っていたとしても、家主が防犯設備の改善にあまり興味がなかったり、諸々の改善要求に対して応じない場合はその物件を選ばないことも選択肢の1つ。

【入居前に行う住宅確認例】

- (例1) 玄関ドアの鍵などの設備を整える。
- (例2) 入居前に壊れている設備などの修理対応を行う。

②住居侵入窃盗を防止するための対策

- 一般的に、犯罪者は侵入が比較的簡単な住宅をターゲットにする傾向があるため、**周囲の住宅より自宅の安全対策が緩ければ、自宅が標的になる可能性が高くなる。**
- 近隣の住民がどのような安全対策を行っているかも確認し、自宅の安全対策と比較して弱点となる部分があれば対策が必要。
- 住居の安全対策は定期的な見直しが必要。(例：月に1回程度)
- 住居の安全対策を行うに当たって、住宅に3つの防衛ラインを設けて必要な対策を施す考え方が有効的。

【防衛ラインの考え方】

◇第1次防衛線

外周の防衛ラインで、独立家屋の場合には敷地境界線、集合住宅の場合には共通の出入口（ロビー玄関外側の扉）。

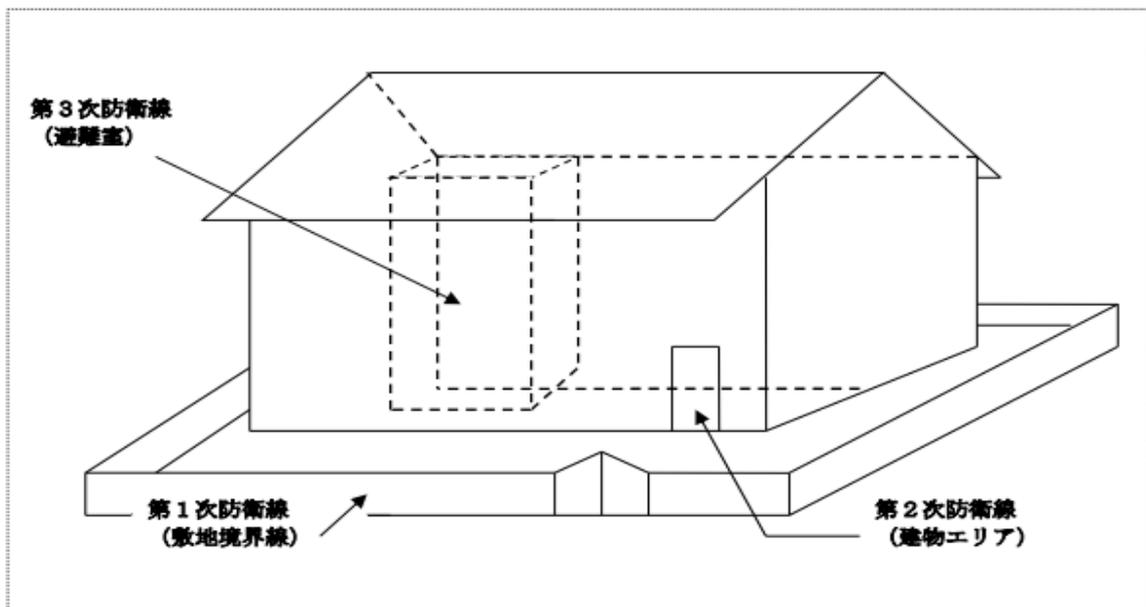
◇第2次防衛線

内周の防衛ラインで、独立家屋の場合は住宅建物地域（建物エリア）の外周を構成するライン、集合住宅の場合には住宅部分の外周を構成する防衛ライン（玄関や窓、その他通用口等）。

◇第3次防衛線

内周の防衛ラインで、独立家屋、集合住宅いずれの場合も第2次防衛線内に設けた避難区域（通常主寝室（ベッドルーム））に設定する防衛ライン。

【イメージ図】



第1次防衛線の安全対策

●外壁

最初の防衛線であり、侵入者が簡単に侵入できないような構造にする必要あり。外塀は、コンクリート、ブロック、レンガなどの堅牢なものにし、2m以上の高さが望ましいが、そうでない場合には、最低限垣根やフェンス等で家の周りを囲われているような構造となっている物件が効果的である。外塀の上に防犯灯があれば、侵入者は他人に発見されることを恐れ、心理的に侵入をためらうので**防犯灯の設置は極めて有効**。

●門扉

外塀と同様に堅牢なものが望ましい。門扉には南京錠のような簡単な鍵は避け、必要であれば二重に鍵を付ける。また、来訪者等を確認する手段としてインターホンを設置することが望まれる。可能であれば、警備員を配置することも非常に有効。

●駐車場（車庫）

駐車場は、住宅を選ぶ時に重要な要素の1つとなる。駐車場は住宅の敷地内にあり、部外者が簡単に入れない構造になっている必要がある。

第2次防衛線（建物エリア） 第1次防衛線（敷地境界線） 第3次防衛線（避難室）また、駐車場内に侵入者が潜めるような場所がないか確認が必要。更に駐車場内外には防犯灯としての照明設備は非常に有効。

●庭と建物外周

照明設備を設け、侵入者が身を潜めやすい暗がりを作らないことが大切。庭の植え込みや樹木は日頃より良く整備し、室内から庭全体に不審者や不審物がないか見渡せるようにしておくことも肝要。また、2階への足場となるような梯子、椅子、箱類を屋外に放置しないようにすること。

第2次防衛線の安全対策

●入り口扉（玄関）

玄関の扉と扉の枠は頑丈なものとし、スチール製、金属製が最良（木製の場合、一枚板で厚さ5cm以上のものが望ましい）。そして扉には錠前を2つ以上付け、扉を開けずに来訪者が確認できるように覗き穴を設置するほか、チェーン錠を設置することも一案。

●その他の出入り口

通用門などの家屋への出入り口についても、玄関と同程度の安全対策が必要。

●窓

侵入者にとって窓は格好の侵入経路であり。可能であれば全ての窓（トイレの小窓、冷暖房器具の取付け口などを含め）には鉄格子を取り付けが望ましい。なお、一般に鉄格子は室内側に取付けた方が防犯対策上効果的。また、火災などの発生を考慮して、鉄格子に内部より開閉できる部分（脱出口）を作っておくことが望ましい。

●建物 屋根、屋上、隣家のテラス、非常階段からの侵入者の侵入は盲点となりやすいので十分注意する必要がある。建物の防犯強化手段として、隣接する建物から侵入が容易な場所への鉄柵等の設置、その他侵入警戒装置や警報装置を設置することなどが考えられる。また、**テラスの照明を点灯させることも 防犯対策上有効。**

第3次防衛線の安全対策

第1次、第2次防衛線を侵入者に突破されて侵入される事態を想定し、避難や警察等へ通報する時間を稼ぐために、避難室を設置する必要がある。一般に避難室は主寝室（ベッドルーム）になると思われ、可能であれば室内にも電話を設置し、**緊急連絡先リストを備える。**

近隣関係

大家を始めとした近所付合を良好にし、不審者が来た場合の通報等が出来るよう、協力関係を構築する。

在宅時の留意事項

- 在宅時も施錠すること。
- 来訪者に対しては、付近に不審な車がないかを確認した上でインターホン又はドア越し

に対応し、来訪者の身分、要件等を必ず確認すること。

- 就寝時は寝室に鍵を掛け、電話又は携帯電話の通信手段を手元に確保しておくこと。
- パソコンや貴重品等は窓の外から見える場所に置かないこと。

不在時の留意事項

- 日中・夜間を問わず、外出の際は必ず鍵を掛けること。
- 長期間留守にするときは、隣人や家主に見回りを依頼し、貴重品は金庫等の安全な場所に保管すること。

住居侵入被害にあった場合の措置

- 速やかに警察（911）に連絡すること。
- 警察の鑑識活動のため、被害場所、遺留品等には触れないこと。

(2) スリ、置き引き、ひったくり被害の防止

- ①空港・ホテルロビー等では、所持品は常に自分の身の回りに置き、常に体に触れているよう心掛ける。
- ②ズボンのポケットなどに財布や貴重品を入れないこと。
- ③多額の現金や貴重品は持ち歩かないこと。
- ④歩道を歩く際、バック等は車道と反対側に持つこと。
- ⑤ATM を利用する際は、周囲に不審者がいないか確認すること。また、暗証番号を入力する際には、手で隠して他人に覗かれないように注意すること。
- ⑥見知らぬ人に声をかけられても基本的に相手にしないこと。

(3) 車上荒らし被害の防止

- ①外から見える車内に貴重品を放置しないこと。
- ②短時間の駐車といえどもドアロックを確実に行うこと。
- ③警報ベル、ハンドル固定器具等の防犯機器を備えること。

(4) 強盗犯罪被害防止

強盗の被害にあった場合は抵抗せず、犯人の人相、着衣、人種、逃走方向、車両ナンバー等を記憶し、警察に通報すること。

(5) 性犯罪被害防止

- ①夜間の女性の一人歩きは避けること。
- ②見知らぬ人からの誘い（英会話指導、食事、観光案内等）には乗らないこと。
- ③タクシー乗車時、運転手から聞かれても個人の生活（一人住まい等）は明かさないと。

(6) 薬物犯罪の防止

- ①バー等で薬物の使用や購入を持ちかけられても絶対に応じないこと。
- ②合法的薬剤と勧められても、薬剤関係には手を出さないこと。

(7) 宿泊施設での盗難防止

- ①セキュリティーの整った宿泊施設を選び、貴重品はセーフティーボックスに入れるか、ホテルのフロントに預けること。
- ②在室時は、ドアチェーンを掛けること。ボーイやルームサービスに対しても不用意にドアを開けないこと。

(8) 交通事情と事故対策

サモアでは飲酒運転に起因する交通事故が多く発生しているので、これらの事故に巻き込まれないように注意が必要です。また、幹線道路はアスファルトで舗装されていますが、アスファルトが剥がれ、大きな穴が開いている箇所もあり、運転には注意が必要です。

(9) 水難事故対策

サモアでは過去に水難事故で邦人が亡くなる事案が発生しています。遠浅のビーチでも、潮の流れが速い箇所もありますので、十分注意が必要です。

【海岸での注意点】

- ① 海に入る前に当日の天気予報や波の状況を確認し、不安があれば泳がない。
- ② 離岸流（海岸に打ち寄せた波が沖に戻ろうとする時に発生する強い流れ）に注意する。
- ③ 地元の方からの情報を聞き、泳ぐ場所での注意点を確認する。
- ④ 複数人で行動し、砂浜等で休憩中の方は海に入っている仲間を注意して見るようにする。
- ⑤ 飲酒後や体調の悪い時には、海に入らない。
- ⑥ 海に入る時は、気が付かないうちに沖へ流されて慌てることがないように、周囲を観察するなど注意しながら遊ぶ。
- ⑦ カヤックを含め船に乗る時はライフジャケットを着用する。
- ⑧ ビーチや海ではマリンシューズを履く。

(10) テロ・誘拐対策

サモアでは、反政府武装組織やイラク・レバントのイスラム国（I S I L）等のイスラム過激派等の国際的テロ組織の活動は確認されていません。また、身代金目的の誘拐事件や外国人を標的とした誘拐事件発生も確認されていません。国民のほとんどがキリスト教を信仰し、宗教間の対立もなく、また国民の9割がポリネシア系サモア人のため民族間の対立もありません。

4 緊急連絡先等一覧

警察	9 1 1 (+685) 2 2 2 2 2
消防・救急	9 1 1 (+685) 2 0 4 0 4
国立病院（ウポル島）	(+685) 2 1 2 1 2
ツアシビ病院（サヴァイイ島）	(+685) 5 3 5 1 1
在サモア日本国大使館	(+685) 2 1 1 8 7

5 緊急時のサモア語

空欄に伝えたい内容を書いて相手にその文章を見せてください。

(日本語) 私は日本人です。名前は _____ といいます。
 (英語) I' m Japanese. My name is ●●●●●●.
 (サモア語) O a'u o le Iapani. O lo'u igoa...

(日本語) 私は _____ に泊まっています。
 (英語) I' m staying in ●●●●●●.
 (サモア語) Oute nofo i...

(日本語) 私を _____ まで連れて行ってください。
 (英語) Please take me to the ●●●●●●.
 (サモア語) Faamolemole, ave a'u i...

(日本語) (電話番号) まで電話をかけてください。
 (英語) Please call the number ●●●●●●.
 (サモア語) Faamolemole vili le numera... _____。

(日本語) 警察を呼んでください。
 (英語) Please call the police.
 (サモア語) Vili leoleo faamolemole.

(日本語) 救急車を呼んでください。
 (英語) Please call the ambulance.
 (サモア語) Vili le ta'avale a le falema'i faamolemole

(日本語) 病院に連れて行ってください。
 (英語) Please take me to the hospital.
 (サモア語) Ave a'u i le falema'i faamolemole

【メモ欄】

III 緊急対処マニュアル

1 平常時の準備

(1) 大使館への届け出

① 在留届

3か月以上当地に滞在される方は当館まで在留届の提出をお願いします。（こちらは、[オンライン在留届](#)から届出可能です。）

また、届出内容に変更がある場合、及び帰国の際にもその旨ご連絡ください（在留届は旅券法で提出が義務づけられています。）。

② たびレジ

3か月未満の短期滞在の方は、滞在予定を登録して頂けるシステム「[外務省海外旅行登録（たびレジ）](#)」がありますのでご活用下さい。本登録を行うことで、当館からの最新の安全情報をメールで確認できる他、緊急時には安否確認に利用されます。

2 緊急時の行動

(1) 災害を伝える報道に接した日本国内の家族等関係者より、在留邦人の安否の確認照会が殺到することが予想されます。可能な限り、日本国内の家族等に自分の安否を知らせてください。

(2) 自分や自分の家族、または他の邦人の生命・身体に危害が及ぶ、またはその恐れがある場合は、その状況を当館まで報告願います。

3 緊急事態に備えてのチェックリスト

項目	ポイント
旅券等	<ul style="list-style-type: none">○ 残存有効期間を確認（1年未満は、旅券切替(更新)の手続を)○ 新生児等で旅券を持っていない場合は、戸籍等の関係書類が整い次第、早めに旅券を取得する。○ 旅券最終頁の「所持人記載欄」の記載もお忘れなく○ このほか運転免許証等の身分証明書も常に携行、あるいは、すぐに持ち出せるように準備
現金、クレジットカード等	旅券と同様にすぐに持ち出せるよう保管
自動車	<ul style="list-style-type: none">○ 日常的な車両の整備○ 常に十分な燃料を補給○ 懐中電灯、地図、バッテリー用ブースター等を車両に常備○ 車を所有していない場合、平常時から知人等に避難時について相談しておく。

<p>携行品 (上記の他、避難場所での待避の際の準 目) 備品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 衣類、着替え ○ 防水、防寒着 ○ 履物(運動靴等身動きがとれやすいもの) ○ 洗面道具(タオル、歯磨きセット、石けん等) ○ 寝袋 ○ 非常用食料等 家族全員が最低 3 日間(理想は 10 日間)程度生活できる量を <ul style="list-style-type: none"> ・米(アルファ米等の火を使わずに食べられるもの) ・缶詰類(簡単に開けられるもの) ・インスタント食品(加熱せずに食べられるものがよい) ・粉ミルクやビスケット等の保存食 ・ミネラルウォーター ・水筒(大型が望ましい) ○ 医薬品等 家庭用常備薬の他、常用薬、外傷薬、消毒用石けん、衛生綿、包帯等 ○ ラジオ <ul style="list-style-type: none"> ・現地放送聴取用 AM・FM ラジオ ・短波ラジオ(NHK 国際放送、BBC 等の短波放送聴取用) ・ラジオ用予備電池 ○ その他 携帯電話用バッテリー(コンセント不要のもの)、懐中電灯・予備電池、ライター、ろうそく、マッチ、ナイフ、缶切り、栓抜き、紙製の食器、割り箸、簡単な炊事用具、ヘルメット、防災頭巾(代替品として椅子用クッション等も可)。
<p>連絡先リスト</p>	<p>電力が確保できないときを考慮し、電子媒体(携帯電話の電話帳など)のほか、紙に印字等したものの用意もお勧めします。</p>